▼甘酒接待▲

毎年、十一月二十三日の新穀感謝祭に氏子から供米が奉納されている。

平成十二年、神前に供えられた供米で甘酒を造って、正月の参拝者に振る舞うべく、一月一日午前０時からと午前九時からとの二回に分けて甘酒接待を行っている。

深夜の参拝では、温かい甘酒が好評である。

甘酒の接待を受ける参拝者

▼表参道提灯点灯▲

春秋の大祭、夏祭、正月の夜間参拝時に表参道が暗く危険を伴うため、平成十四年の春祭から仮設提灯を点灯する事とした。

県道から正面鳥居まで続く表参道は、以前と比べて格段に明るくなり、参拝者も安心して参拝できると同時に、祭りの雰囲気も盛り上がる結果となった。

提灯で明るく照らされる表参道

▼どでカボチャ奉納▲

平成十七年十月氏子の星島孝雄氏が育てた「どでカボチャ」（アトランティック・ジャイアント）が奉納された。

周囲三ｍ五〇㎝、重さ二八〇㎏のどでカボチャは新年まで境内に展示され、参拝者を驚かせた。星島氏は、「どでカボチャ世界大会での優勝経験もあり、平成十九年には四一六、六㎏を達成した。

境内に展示された「どでカボチャ」

▼ロウソクアート▲

平成十九年秋季大祭夜に、新しく移設された鶴崎神社本殿のライトアップを兼ねて、仮設階段と本殿前石垣にロウソクアートを行った。

当日は、珍しく寒い夜であったが、ロウソクのほのかな光に照らされた本殿は参拝者を幽玄の世界に誘った。

仮設階段に設置されたロウソクで照らされた本殿

▼干支ジャンボ折り紙▲

平成十四年（午年）の正月から境内に特設舞台を設置してその年の干支を折り紙で表現して、参拝者に喜んでもらおうと「干支ジャンボ折り紙」を展示する事とした。

ヒツジ以降は、光森康郎氏（岡山市在住）の協力を得て、同氏の考案するオリジナルデザインとなった。

大きさは高さ一ｍ九〇㎝～二ｍ六〇㎝、幅二ｍ三〇㎝から大きいもでは四ｍにも及ぶ。

毎年、十二月下旬から一月三十一日まで展示が行われている。

当初から珍しさもあって、マスコミ関係者の取材が殺到し、新年の風物詩として定着した。